

## ■ 概況

6/17～6/23のNYMEX・WTI先物市場は、71.04～73.66ドルの範囲で推移した。

6月24日は、夏のドライブシーズンを迎えた米国を中心とする石油需要の拡大への期待から続伸した。米国株価の上昇も支援要因となった。8月限の終値は前日比0.22ドル高の73.30ドル。

週末25日は、欧米を中心にコロナからの経済回復が順調に進む中、米国国務省高官がイランとの核合意復帰をめぐる間接協議について、イランとの間には「深刻な相違」があると発言、イラン原油の輸出再開には時間を要するとの見方から、3営業日続伸し、2018年10月以来の74ドル台に乗せた。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比1基減の372基。8月限の終値は前日比0.75ドル高の74.05ドル。

週明け28日は、先週末の価格上昇への警戒感・反動とともに、アジア・オセアニア地域におけるコロナ変異種（インド型デルタ株）の感染再拡大に対する懸念から、4営業日ぶりに反落した。8月限の終値は前日比1.14ドル安の72.91ドル。

29日は、夏場に向けての石油需要の回復への期待から、わずかながら反発した。OPECのバーキンド事務局長も2021年の需要増加600万バレルのうち500万バレルは年後半に増加するとの発言や、ノースウエスト航空の従業員への7月の追加勤務要請も、値上がり要因となった。8月限の終値は0.07ドル高の72.98ドル。

30日は、米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油が前週比670万バレル減と市場予想を上回る減少となり、続伸した。ただ、OPECプラスの会合を前に、様子見する関係者も多く、上値は抑えられた。8月限の終値は前

日比0.49ドル高の73.47ドル。

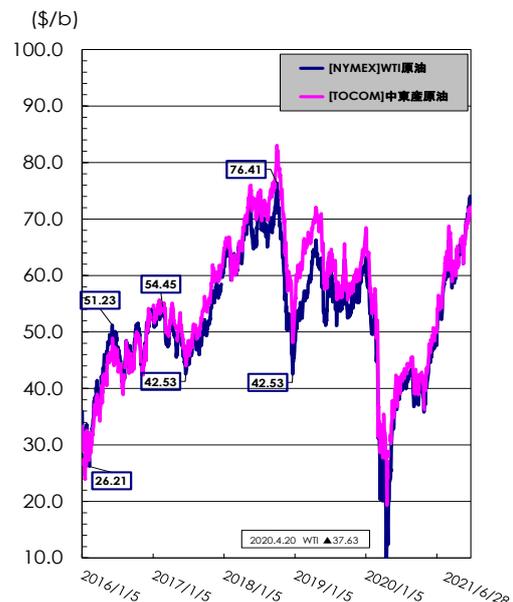
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、6月17日～23日の間70.80～73.40ドルの範囲で推移した。6月24日73.50ドル、25日73.70ドル、28日73.90ドル、29日72.60ドル、30日73.30ドルと推移した。

為替は6月17日～23日の間110.25～110.79円の範囲で推移した。6月24日111.06円、25日110.99円、28日110.69円、29日110.52円、30日110.58円で推移した。

財務省が6月29日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、6月上旬の原油輸入平均CIF価格は、46,498円/klで、前旬比1,069円高、ドル建て67.74ドルで前旬比1.58ドル高、為替レートは1ドル/109.14円。

そのような中で、6月28日時点の小売価格は、ガソリンが前週(6月21日)比0.7円の値上がり、軽油も同0.7円の値上がり、灯油は同10円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は30週連続の値上がりだった。この週(6月第5週)の原油コストは値上りし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.0円の引き上げとなった模様。

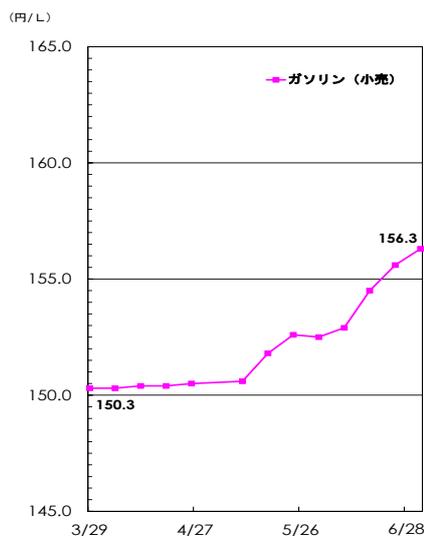
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/20～6/26	2,263 ▼-116	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	58.8 ▼-3.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	6/26	10,701 ▼-374	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/28	72.07 ▲1.60	▲ 33.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/28	72.91 ▼-0.75	▲ 33.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	67.74 ▲1.58	▲ 43.19
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	46,498 ▲1,069	▲ 29,854
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.14 ▲0.03	▼ -1.38
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/28	111.69 ▼-0.44	▼ -3.45



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/20 ~ 6/26	707 ▼ -182	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	738 ▼ -47	▼ -	
	輸出	"	25 ▼ -14	▲ -	
	在庫	6/26	2,309 ▼ -56	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/22 ~ 6/28	66.3 ▲ 1.2	▲ 27.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/22 ~ 6/28	64.9 ▼ -0.2	▲ 26.0
		(TOCOM/中部)	6/28	63.3 ▼ -0.7	▲ 24.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/28	156.3 ▲ 0.7	▲ 25.2	

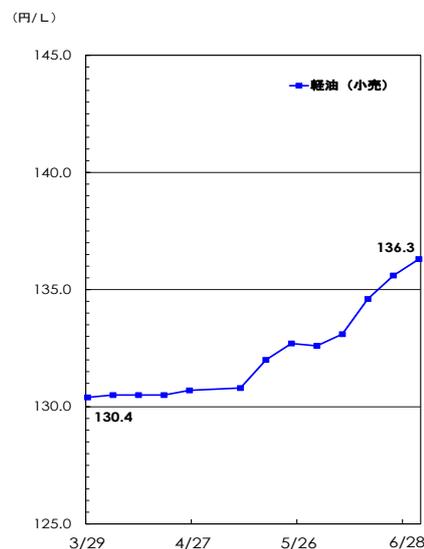
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

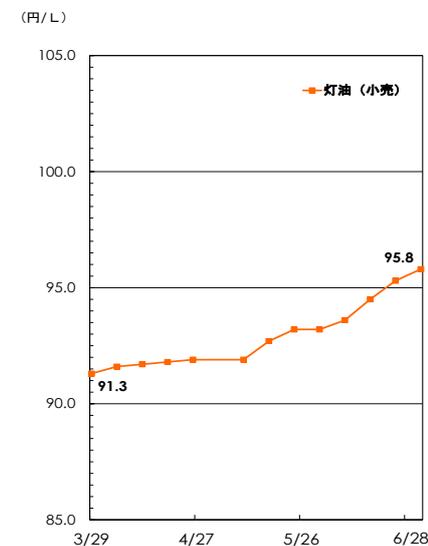
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/20 ~ 6/26	617 ▲ 36	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	660 ▲ 114	▲ -	
	輸出	"	94 ▲ 58	▲ -	
	在庫	6/26	1,751 ▼ -137	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/22 ~ 6/28	67.7 ▲ 1.0	▲ 26.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/22 ~ 6/28	68.5 ▲ 1.0	▲ 23.0
		(TOCOM/中部)	6/28	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/28	136.3 ▲ 0.7	▲ 24.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/20 ~ 6/26	131 ▼ -18	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	65 ▲ 8	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/26	1,761 ▲ 66	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/22 ~ 6/28	67.2 ▲ 0.6	▲ 27.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/22 ~ 6/28	63.5 ▲ 1.4	▲ 23.5
		(TOCOM/中部)	6/28	65.5 ▲ 1.0	▲ 26.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/28	95.8 ▲ 0.5	▲ 17.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月30日のNYMEXのWTI先物原油は続伸した。米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油は前週比670万バレル減と市場予想(470万バレル減)を上回る取り崩しとなり、6週連続の減少となり、製油所稼働率も上昇し、経済回復に伴う石油需要の増加を意識させた。ただ、1日開催予定のOPECプラスの合同閣僚級監視委員会(JMMC)を前に、積極的な取り引きを控え、様子見する関係者も多く、上値は抑えられた。8月限の終値は前日比0.49ドル高の73.47ドル、9月限の終値は0.46ドル高の72.77ドル。

EIAによると、6月28日時点のガソリンの小売価格は、前週

比3.1セント値上がりの1ガロン3.091ドル(91.1円/ℓ)、ディーゼルは同1.3セント値上がりの3.300ドル(97.2円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは9週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年6月20日～6月26日に休止したトッパー能力は96.2万バレル/日で、前週に対して1.1万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は226.3万klと、前週に比べ11.6万kl減少。前年に対しては20.9万klの減少。トッパー稼働率は58.8%と前週に対して3.0ポイントの減少、前年に対しては4.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/20.4%減、ジェット/5.0%減、灯油/11.8%減、軽油/6.2%増、A重油/4.3%増、C重油/30.4%減。今週のC重油の輸入は0.9万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は9.4万kl(前週比5.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリンが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、灯油が減少し、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は73.8万kl(対前週6.0%減)と2週振りまで減少した。ジェット10.1万kl(対前週2,362.8%増)、灯油6.5万kl(対前週13.1%増)、軽油66.0万kl(対前週21.0%増)、A重油17.1万kl(対前週5.3%増)、C重油21.8万kl(対前週55.5%増)。

(単位:千kl)

	今週 (6/20 ~ 6/26)	前週 (6/13 ~ 6/19)	前週比
ガソリン	738	785	▼ -47 (-6%)
ジェット燃料	101	4	▲ 97 (2425%)
灯油	65	57	▲ 8 (14%)
軽油	660	546	▲ 114 (21%)
A重油	171	162	▲ 9 (6%)
C重油	218	141	▲ 77 (55%)
合計	1,953	1,695	▲ 258 (15%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月26日時点の在庫は、灯油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油、A重油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは230.9万kl、前週差5.6万kl減。前年に対しては62.4万kl多い。

灯油は176.1万kl、前週差6.6万kl増。前年に対しては3.6万kl少ない。

軽油は175.1万kl、前週差13.7万kl減。前年に対しては27.9万kl多い。

A重油は73.4万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては3.7万kl少ない。

C重油は186.7万kl、前週差8.1万kl減。前年に対しては3.4万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (6/26)	前週 (6/19)	前週比
ガソリン	2,309	2,365	▼ -56 (-2%)
ジェット燃料	696	788	▼ -92 (-12%)
灯油	1,761	1,695	▲ 66 (4%)
軽油	1,751	1,888	▼ -137 (-7%)
A重油	734	756	▼ -22 (-3%)
C重油	1,867	1,948	▼ -81 (-4%)
合計	9,118	9,440	▼ -322 (-3.4%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月22日～28日の指標原油価格は前週(6月15日～21日)比で値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週(7/1～7/7)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.0円の値上げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月22日～28日の製品スポット市況は、6月15日～21日平均と比べ、ガソリンの先物取引を除いて、他の油種・取引で、値上がりした。

直近(6/22～6/28)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.2円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は1.0円の値上がりだった。直近週(6/22～6/28)において、ガソリンは119～110円台で値上がり、灯油は66～67円台で値上がり、軽油は66～68円台で値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(6/22～6/28)に、前週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は1.4円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(6/22～6/28)に、ガソリンは120～121円台で横ばい後値上がり、灯油は63～66円台で大きく値上がり後わずかな値下がり、軽油は68～69円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は1.4円の値上がり、軽油は1.0円の値上がりだった。先物価格は、同期間(6/22～6/28)に、ガソリン118～119円台で値下がり後大きく値上がり、灯油62～64円台で大きく値上がり、軽油68～69円台で値上がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (6/22～6/28)	前週 (6/15～6/21)	前週比
	レギュラー	66.3	65.1
灯油	67.2	66.6	▲ 0.6
軽油	67.7	66.7	▲ 1.0

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (6/22～6/28)	前週 (6/15～6/21)	前週比
	レギュラー	64.9	65.1
灯油	63.5	62.1	▲ 1.4
軽油	68.5	67.5	▲ 1.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/22～6/28実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.2	▼ -0.2	▲ 0.5
灯油	▲ 0.6	▲ 1.4	▲ 1.0
軽油	▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 1.0
A重油	▲ 0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

6月28日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(6月21日)比0.7円高の156.3円、軽油も同0.7円高の136.3円、灯油は18<sup>銭</sup>ペースで同10円高の1,725円(1<sup>銭</sup>ペースでは同0.5円高の95.8円)。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は30週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは43都道府県、横ばいはなし、値下がり4県だった。全国最安値は150.2円の徳島県(同0.5円高)、その次に安かったのは151.2円の岡山県(前週比0.3円安)、他方、最高値は164.9円の鹿児島県(同0.7円高)だった。最も値上がりしたのは同

2.6円高の香川県(156.9円)で、横ばいはなし、最も値下がりしたのは同0.4円安の栃木県(153.6円)だった。

今週(6月22日～28日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(7月1日～7日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.0円の値上げとなった模様。次回調査時(7月5日)のガソリンの小売価格は値上がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/28)	前週 (6/21)	前週比	直近高値
レギュラー	156.3	155.6	▲ 0.7	08/8/4 185.1
灯油	95.8	95.3	▲ 0.5	08/8/11 132.1
軽油	136.3	135.6	▲ 0.7	08/8/4 167.4

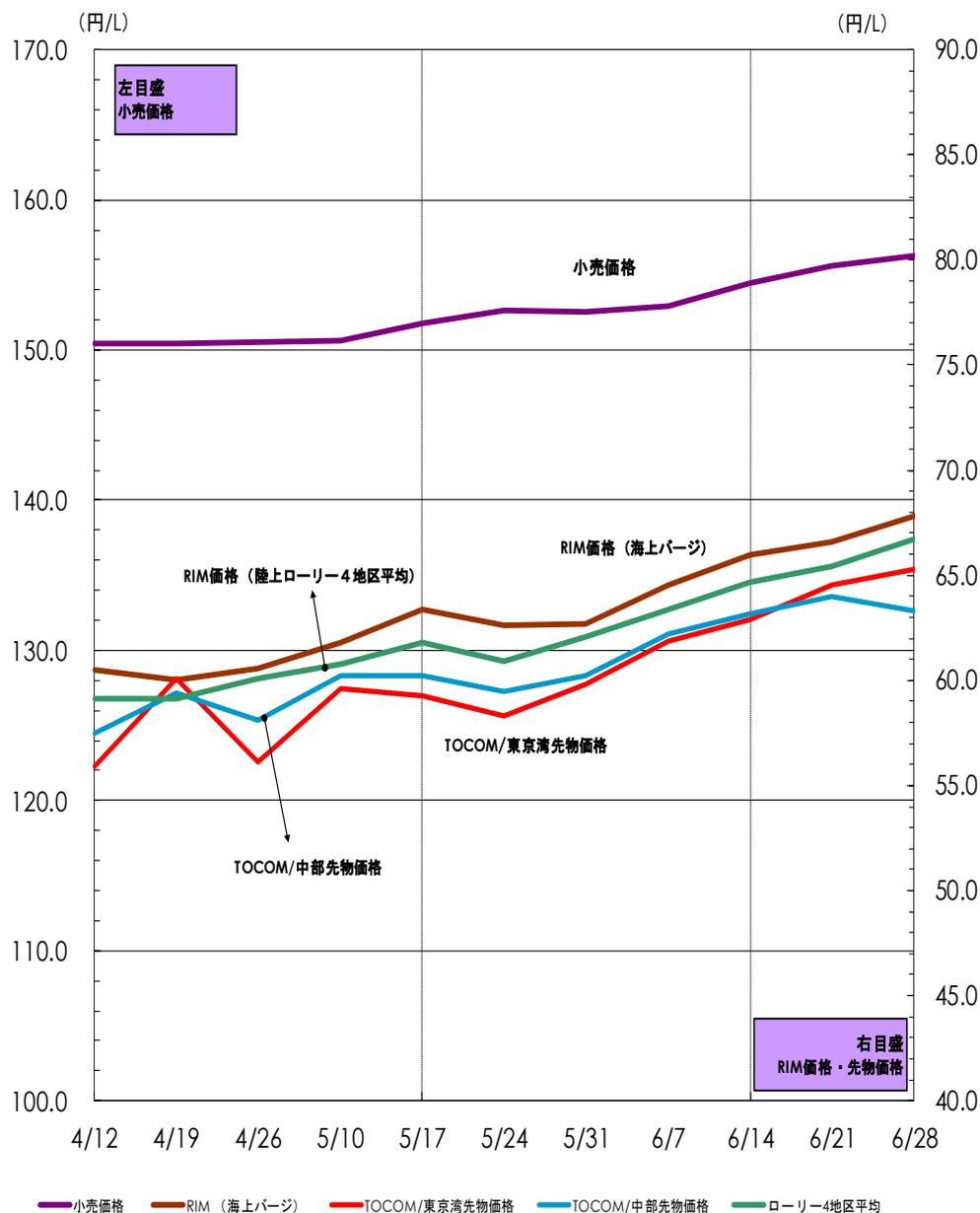
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2021/4/12 ~ 2021/6/28)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2021第14号)の公表は、7/9(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。